



[文化・芸術のまち京都]

歴 109 (R01)

筈井邸が建つのは、丸太町通と日暮通の西側です。日暮通の名は、聚楽第の正門であった日暮門に由来し、沿道には聚楽第の施設や秀吉ゆかりの武将の名にちなんだ町名が現在も残され、往時の繁栄を偲ばせます。

建仁寺本坊大方丈障壁画などを手掛け、安土桃山時代から江戸時代初期に活躍した、日本を代表する絵師・海北友松の末裔が、明治45年に建築し、代々の住まいとしました。平成14年に現在の所有者が受け継ぎ、現在は古美術業を営んでいます。

主屋は、木造瓦葺き2階建て切妻平入りで、外壁は漆喰塗りとし、鎧張りの腰壁が張られ、屋根は一文字瓦、通り庇には加敷造の軒が付いています。1階、2階とも明かりを取り込む開口部を大きく設け、2階の開口部には、お多福窓が付いています。1階座敷は竿縁天井を張り、北側には平書院を持つ床の間と、天袋と違い棚を備えた床脇が並び、同じく2階にも竿縁天井を張り、北側には平書院を持つ床の間と、天袋と違い棚を備えた床脇が並びます。

池を中心に様々な大きさの庭石や踏石が置かれている座敷庭には、手水鉢、灯籠、石橋が据えられ、モミジやナンテンなど彩りある植栽が多く、水と石と植栽の組み合わせが絶妙な庭となっています。



軒裏



庭



〒602-0873 上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町772
※個人宅のため、通常非公開です。